第2講　文学史②（中世・近世）

1　鎌倉～室町文化（中世）

①鎌倉文化の文芸（12世紀末～14世紀前半）

A　和歌集

あ　**新古今和歌集（1205年，後鳥羽上皇）**

1980首を20巻に収める**勅撰和歌集**で，**八代集**の最後。体言止め・本歌取りなどの技巧的な表現，観念的な美の境地は**新古今調**とされる。**藤原定家**・藤原家隆らが編纂。

い　**山家集　　　（西行）**

☆西行は，出家前は北面の武士として鳥羽上皇に仕えていた。

う　**金槐和歌集　（源実朝，万葉調の作風）**

え　小倉百人一首（藤原定家）

拾遺愚草　　（　〃　）

☆藤原定家は歌論『近代秀歌』も著す。

B　説話集

あ　発心集　　　（鴨長明）

い　**宇治拾遺物語**

☆院政期の『今昔物語集』の補完。不思議な説話が多い。

う　**十訓抄**

え　**古今著聞集**　（橘成季）

お　**沙石集　　　（無住〔無住一円〕，仏教説話集）**

C　**随筆**⇒隠者文学の双璧

あ　**方丈記　　　（鴨長明）**

☆鎌倉初期の作，鴨長明は歌論『無名抄』も著す。

い　**徒然草　　　（兼好法師〔卜部兼好・吉田兼好〕）**

☆鎌倉末～南北朝期の作。

D　紀行文⇒幕府開設にともなう京・鎌倉間の往来

あ　海道記

い　東関紀行　　（源親行？）

う　**十六夜日記　（阿仏尼）**

☆実子と継子の所領裁判のため，京から鎌倉へ赴く旅日記。

E　日記

あ　**玉葉**　　　**（九条兼実）**

い　明月記　　　（藤原定家）

F　**軍記物語**⇒和漢混淆文の隆盛

あ　**保元物語**

い　**平治物語**

う　**平家物語**　（**信濃前司行長**？）

☆桓武平氏の興亡を主題とした傑作。**琵琶法師**により平曲として語られたことにより，文字を読めない人々にも親しまれた。

え　源平盛衰記

☆平家物語の異本の一種？

②鎌倉文化の歴史・学問・思想（12世紀末～14世紀前半）

A　**水鏡**　　　　（中山忠親）

大鏡以前，神武～仁明天皇までを貴族の立場から描く。

B　**愚管抄**　　　**（慈円**〔慈鎮〕**⇒摂政・関白九条兼実の弟，天台座主）**

末法思想が全編を貫く**最古の歴史哲学書**。歴史を「**道理**」の展開ととらえ，**後鳥羽上皇の討幕計画への諫言**とした。

C　百錬鈔

冷泉～後深草天皇までを編年体で記す歴史書。

D　**吾妻鏡**〔東鏡・東鑑〕

源平合戦から6代将軍宗尊親王帰京までの**鎌倉幕府の歴史**を，編年体の漢文**日記体**で記す。執権北条氏の立場を擁護する傾向が著しい。

E　**元亨釈書**　　　**（虎関師錬）**

☆元から渡来した一山一寧の日本人弟子が著した，**初の仏教史書**。

F　古典研究

あ　**万葉集註釈**〔仙覚抄〕**（仙覚）**

い　**釈日本紀**　**（卜部兼方）**

☆最古の『日本書紀』注釈書。

G　**有職故実**

朝廷の儀式・年中行事・先例を研究。公家儀礼が有職，武家儀礼が故実と分ける場合もある。

あ　世俗浅深秘抄　（後鳥羽天皇）

い　**禁秘抄**　**（順徳天皇）**

H　**図書館**

金沢文庫　**（北条〔金沢〕実時）**

☆武蔵国称名寺の境内にある，**初の武家による私設図書館**。

I　**宋学〔朱子学〕**の伝来

南宋の**朱熹〔朱子〕**が始めたもの。君臣の別を説く**大義名分論**は，後醍醐天皇の討幕運動の理論的支柱となった。

③南北朝文化の文芸・芸能（14世紀）

A　文芸

あ　和歌

新葉和歌集　（宗良親王）

☆南朝の皇族・貴族の和歌を集め，勅撰に準ぜられる。

い　**連歌**⇒公家・武家を問わず広く流行。

和歌を上の句と下の句に分け，一座の人々が次々に句を継いでいく共同作品。

菟玖波集　**（二条良基）**

☆北朝方の摂政・関白・太政大臣が編集した**最古の連歌集**。**準勅撰とされ，連歌が和歌と対等の地位を築く。**

応安新式　**（　〃　）**

☆**連歌の規則書**。

う　**五山文学**⇒**五山版**の出版

中正子　（中巌円月）

☆中巌円月は，元に留学経験のある漢詩文に優れた五山僧。

え　**軍記物語**

太平記　（小島法師？）

☆**南北朝の動乱を南朝の立場から記述**。のち「太平記読み」と呼ばれる講釈師らにより広く普及した。

曽我物語

☆曽我兄弟による仇討ち物語。

B　歴史⇒南北朝の動乱を反映し，歴史意識の高まりが見られる

あ　**神皇正統記　（北畠親房）**

神国思想の立場（伊勢神道の影響）から大義名分論に基づき記述。1339年，常陸国小田城で完成。**南朝の正統性を主張**し，吉野で**後村上天皇に献上**される。

☆北畠親房は『元元集』で伊勢神道についても著す。

い　**梅松論**

足利氏の政権獲得までの過程を，**北朝の立場から**比較的史実に忠実に記述。

う　**増鏡**

公家の立場から鎌倉時代を記述した歴史物語。**四鏡の最後**。

C　学問

あ　古典研究

河海抄　　　（四辻善成）

☆源氏物語の注釈書。

い　**有職故実**

建武年中行事（後醍醐天皇）

職原抄　　　（北畠親房）

う　武家子弟・庶民の学問

正平版論語　（道祐居士）

☆堺の初の論語印刷本である『論語集解』の通称。

庭訓往来　　　（玄恵？）

☆手紙文形式の往来物の代表。

D　能楽

多くの人を集め上演される。

E　**茶寄合**

公武を問わず，各地で賭け事として**闘茶**が流行。

☆闘茶は，茶や水の異同を飲み分けて賭け物を争う勝負事。

F　風俗

動乱で台頭した新興武士たちにより，伝統的権威を無視し傍若無人なふるまいをする「**バサラ〔婆娑羅〕**」の風潮が高揚。

☆「バサラ」は華美・贅沢を意味し，近江国の佐々木導誉〔高氏〕らがバサラ大名として知られた。

④北山文化の文芸・芸能（14世紀末～15世紀前半）

A　文芸

あ　五山文学僧の活躍

空華集（くうげしゅう）　**（義堂周信（ぎどうしゅうしん））**

蕉堅稿（しょうけんこう）　**（絶海中津（ぜっかいちゅうしん））**

い　軍記物語

難（なん）太平記　（今川了俊（りょうしゅん）〔貞世（さだよ）〕）

☆足利尊氏挙兵以来の今川氏の活躍を述べ，太平記の誤りを指摘。

義経記（ぎけいき）

☆源義経の幼少期と末期の不遇（ふぐう）時代を同情的に描き，民衆的義経伝説の源泉となる。

B　芸能

あ　**能（のう）〔能楽〕**⇒散楽（さんがく）・猿楽（さるがく）・田楽（でんがく）から**猿楽能**が発達

興福寺を本所（ほんじょ）とした**大和（やまと）猿楽四座（しざ）**（結崎（ゆうさき）座〔のち**観世（かんぜ）座**〕・**宝生（ほうしょう）座**・**金春（こんぱる）座**・**金剛（こんごう）座**）が結成され，観世座から**観阿弥（かんあみ）**・**世阿弥（ぜあみ）**父子が出て，**３代将軍義満の保護を受け猿楽能を完成**した。のち，世阿弥の娘婿（むすめむこ）の金春禅竹（こんぱるぜんちく）が後継者として活躍した。

☆主要著書として，**『風姿花伝（ふうしかでん）〔花伝書〕』『花鏡（かきょう）』（世阿弥）**，**『申楽談儀（さるがくだんぎ）』**（世阿弥の談話を子の観世元能（もとよし）が筆録，その他多数の謡曲（ようきょく）（＝能の脚本）がある。

い　**狂言（きょうげん）**

能の合間に演じられる，風刺性の強い庶民喜劇。大名・僧侶・山伏（やまぶし）など権威あるものを笑いの対象としたので，しばしば弾圧の対象となった。

⑤東山文化の文芸・芸能（15世紀後半）

A　文芸

あ　**古今伝授**（こきんでんじゅ）⇒古今和歌集の秘事口伝（ひじくでん）

東常縁（とうのつねより）→**飯尾宗祇**（いいおそうぎ）→→三条西実隆（さねたか）→細川幽斎（ゆうさい）〔藤孝（ふじたか）〕　　（御所（ごしょ）伝授）

↓

→牡丹花肖柏（ぼたんかしょうはく）→饅頭屋宗二（まんじゅうやそうじ）〔林宗二（りん）〕（奈良伝授）

い　**連歌⇒飯尾宗祇**が**正風連歌**（しょうふう）を確立

新撰菟玖波集（しんせんつくばしゅう）　**（飯尾宗祇）⇒準勅撰**

水無瀬三吟百韻（みなせさんぎんひゃくいん）（**飯尾宗祇**・牡丹花肖柏・柴屋軒宗長（さいおくけんそうちょう））

B　**御伽草子**（おとぎぞうし）⇒庶民層を対象とする通俗的（つうぞくてき）短編小説

酒呑童子（しゅてんどうじ），文正草子（ぶんしょうぞうし），福富草紙（ふくとみぞうし），**物くさ太郎**，**一寸法師**（いっすんぼうし），**浦島太郎**（うらしまたろう），さるかに合戦など。

☆絵の余白に当時の話し言葉で書かれた形式のものが多く，読み物としてだけでなく，絵を見て楽しむこともできた。

C　学問・思想

あ　**一条兼良**（いちじょうかねよし）（関白・太政大臣）の活躍

『**公事根源**（くじこんげん）』　⇒有職故実（ゆうそくこじつ）書

『江次第抄（ごうしだいしょう）』　⇒大江匡房（おおえのまさふさ）の有職故実書『江家次第（ごうけしだい）』（院政期）を解説

『日本書紀纂疏（さんそ）』⇒日本書紀の研究

『**花鳥余情**（かちょうよせい）』　⇒源氏物語の注釈書

『**樵談治要**（しょうだんちよう）』　⇒**９代将軍義尚**（よしひさ）**への政治意見書**

『尺素往来（せきそ）』　⇒往来物

い　**足利学校（下野国**（しもつけのくに）**）**

関東管領上杉憲実（のりざね）**が再興**した漢学研究のための学校。戦国期には全国から禅僧・武士が集まり，宣教師ザビエルにより「**坂東の大学**（ばんどう）」として西洋に紹介された。

☆初代庠主（しょうしゅ）（校長）は快元。

う　武家子弟・都市商工業者・庶民の学問

いろは歌，童子教（どうじきょう），実語教，**庭訓往来**（ていきんおうらい），**御成敗式目**などが教科書として使用された。

D　**茶道**・**花道**・香道

あ　**茶道〔茶の湯〕**⇒茶と禅の精神の統一により**侘茶**が創出される

奈良の**村田珠光**→堺の**武野紹鷗**→堺の**千利休〔宗易〕**と大成される。

い　**花道〔華道〕**　⇒同朋衆の立阿弥らの**立花**から生花へ

京都頂法寺〔六角堂〕の**池坊専慶**ののち，専応→専好と大成される。

う　香道〔聞香〕

一定の作法の下で香木を焚き，香りを創出・判定することなどにより人格形成をはかる芸道。

E　芸能

あ　**小歌**

『閑吟集』が編纂される。当時の庶民生活を知る好史料。

い　古浄瑠璃

古い形態の浄瑠璃。現在は当時の音曲を失う。

う　幸若舞

桃井直詮（幼名は幸若丸）が創始した曲舞の一種。

え　**盆踊り**

風流〔風流踊り〕が念仏踊りと結びついて生まれた。

お　猿まわし・獅子舞

か　**祇園祭（京都）**

９世紀から行われた**祇園社〔八坂神社〕**の御霊会が起源。京都**町衆**の経済力・結束力により，応仁の乱後の1500年に再興。

⑥戦国期の文芸（15世紀末～16世紀半ば）

A　**文化の地方普及**

城下町の形成，応仁の乱による**公家・僧侶の地方疎開**，**連歌師**の地方遍歴などによる。

☆典型例＝**大内氏**の城下町周防国**山口**（西の京・小京都），大内版の出版。

B　文芸

あ　連歌

『**犬筑波集**』を編纂した**山崎宗鑑**や荒木田守武らにより，滑稽や機知を基調とする**俳諧連歌**が確立される。

☆連歌師により諸国の各階層へも連歌が普及，公家の堂上連歌に対し地下連歌と呼ばれた。

い　五山文学

梅花無尽蔵（万里集九）

☆中部・関東地方をめぐり，地方の人々と交流して優れた漢詩文を残した。

C　学問・思想

あ　**宋学〔朱子学〕**

薩南学派　　　　**（桂庵玄樹）**

☆肥後の菊池氏・薩摩の島津氏に招かれ，薩摩で『大学章句』を刊行。

海南学派〔南学派〕（南村梅軒）

☆**土佐**の吉良氏に招かれる。

い　医書

医書大全　　　　（阿佐井野宗瑞）⇒堺の医師

☆初の医学書，中国の医学書を翻訳して刊行。

う　辞書

節用集　　　　（饅頭屋宗二〔林宗二〕ら）⇒奈良の商人・文化人

☆国語辞書。

２　桃山～化政文化（近世）

①桃山文化の文芸・芸能（16世紀後半）

A　**慶長勅版〔慶長版本〕（後陽成天皇）**

朝鮮侵略時に**活字印刷術**（木活字・銅活字）が伝来，古活字本のはしりとなる。

B　**阿国歌舞伎**

出雲阿国が京都で**かぶき踊り**を開始。

☆のち**女歌舞伎**（禁止）⇒**若衆歌舞伎**（禁止）⇒**野郎歌舞伎**へと発展。

C　**人形浄瑠璃**

中国の元代につくられた三絃〔三線〕が琉球に伝わり蛇皮線となり，さらに日本に伝来し**三味線**となる。その三味線を伴奏に取り入れ，**浄瑠璃節**に**人形操り**が合体したものをいう。

D　**隆達節**〔隆達小歌〕

堺の商人**高三隆達**が節付けした小歌。

E　囲碁・将棋

本因坊算砂・大橋宗桂の活躍。

F　茶道

堺の**千利休〔宗易〕**により**侘茶**が完成。1587年，**豊臣秀吉**も**北野大茶湯〔北野大茶会〕**を開催するなど，茶の湯は大名や庶民のたしなみでもあった。

☆近世初期の茶人

　町衆⇒千利休〔宗易〕，今井宗久，津田宗及の堺商人３名が「茶の三宗匠」。

　武将⇒織田有楽斎，古田織部，小堀遠州など。

G　**キリシタン版〔天草版〕**⇒ローマ字本が主体

1590年，**宣教師ヴァリニャーニにより活字印刷機が伝来**。『**天草版平家物語**』『天草版伊曽保物語』『日葡辞書』などが，金属製の活字で出版された。

☆**南蛮文化**の代表的資料。

H　**外来語**の残存

カステラ，カッパ，カナリヤ，カボチャ，カルタ，コンペイトウ，シャボン，タバコ，テンプラ，バッテラ，パン，ボタンなど。

②寛永期の文芸・学問（17世紀前半）

A　**仮名草子**

現世否定的な教訓・道徳などを題材に，実用性・娯楽性に富む，通俗的な絵入りの仮名書き小説。

あ　二人比丘尼　（**鈴木正三**）

☆曹洞宗の禅僧。島原の乱後，キリシタンの改宗に努める。世俗的職業に努力することを通して仏道修行もできると説いた。

い　東海道名所記（浅井了以）

う　可笑記　　　（如儡子）

B　**俳諧**

連歌の発句（五・七・五）が俳諧として独立。

あ　**貞門俳諧〔貞門派〕（松永貞徳，京都）**

☆古典の素養に基づく優雅さと，用語の滑稽さを句風とする。

い　**談林俳諧〔談林派〕（西山宗因，大坂）**

☆形式化した貞門派に対し，より自由・平易な句風。上方の町人層に急速に普及した。

C　**朱子学〔宋学〕**

儒学の一派。君臣・父子の別をわきまえ，上下の秩序を重んじる封建教学として幕府・藩に保護される。

あ　**藤原惺窩**

もと相国寺の僧。還俗して朱子学を禅宗から解放し，**京学**の祖となる。徳川家康に請われ進講したが，仕官はせず京都に残った。

☆朝鮮を代表する儒学者李退溪や，朝鮮侵略で日本へ連行された姜沆に大きな影響を受けた。

い　**林羅山〔道春〕**

もと建仁寺の僧。藤原惺窩の門人となり，師の推薦で家康に登用され江戸に下る。４代にわたる将軍の侍講として，朱子学的思想で幕藩体制の身分秩序を正当化するなど，支配体制の整備に活躍。

☆幕府の学問・教育を代々担う**林家**の祖となり，上野忍ヶ岡に私塾弘文館を開設。

③元禄文化の文芸・芸能（17世紀後半～18世紀初め）

A　**井原西鶴**

大坂の町人。西山宗因に学び談林俳諧で注目されたが，やがて仮名草子を発展させ**浮世草子**と呼ばれる風俗小説を確立。愛欲や金銭に執着しつつ，自らの才覚で「浮き世」を生きる人間の生々しい姿を写実的に描写。享楽的現世を大胆に肯定した。

あ　**好色物**⇒男女の好色生活を描く

『**好色一代男**』『好色一代女』『好色五人女』

い　**武家物**⇒武家社会を風刺的に描く

『**武道伝来記**』『**武家義理物語**』

う　**町人物**⇒町人の経済活動を描く

『**日本永代蔵**』『**世間胸算用**』

B　**松尾芭蕉**

伊賀国出身。貞門・談林俳諧を学んだ後，言葉の面白みではない「**さび・**かるみ・しおり・ほそみ」で示される幽玄閑寂の**蕉風**〔**正風**〕**俳諧**を確立。連歌の発句に過ぎなかった俳句を，独立した文学作品に高めた。向井去来ら**蕉門十哲**と呼ばれる弟子を輩出した。

あ　**俳諧紀行文**

『野ざらし紀行』『笈の小文』『**奥の細道**』

☆地方の農村・都市にも，芭蕉の一行を待ち受け支えた人々が存在した。

い　俳句集⇒俳諧七部集〔芭蕉七部集〕

『猿蓑』『冬の日』『春の日』『ひさご』など。

C　**近松門左衛門**

武士出身の**人形浄瑠璃・歌舞伎脚本家**。実話や歴史に題材を求め，「憂き世」における義理と人情の葛藤を鋭く描写。

あ　**世話物**〔**心中物**〕

『**曽根崎心中**』『**冥途の飛脚**』『**心中天網島**』など。

い　**時代物**

『**国性爺（国姓爺）合戦**』『出世景清』など。

D　**人形浄瑠璃**⇒現在の**文楽**の源流

近松門左衛門の作品は，語り＝**竹本義太夫**（**義太夫節**として独自に音曲化），人形遣い＝辰松八郎兵衛で，大坂の竹本座において空前の人気を誇った。

E　歌舞伎

能や狂言は公家・武家の世界にとどまったのに対し，江戸・上方には常設の**芝居小屋**（しばいごや）が置かれるようになり広く普及した。

☆女歌舞伎のち若衆歌舞伎も禁止され，成人男子の野郎歌舞伎となる。以後，演技中心に発展，女形（おやま）も登場し元禄歌舞伎の全盛を迎えた。

あ　**市川団十郎**（いちかわだんじゅうろう）（初代）

超人的な**荒事**（あらごと）を得意とし，**江戸**で活躍。

い　**坂田藤十郎**（さかたとうじゅうろう）（初代）

恋愛劇の**和事**（わごと）を得意とし，**上方**で活躍。

う　芳沢（よしざわ）あやめ（初代）

女形芸の大成者。遊女役を得意とし，上方で活躍。

④儒学の発達⇒文治政治の象徴

幕藩体制が安定期に入り，儒学が人々の社会における役割を説(と)くものとして重視される。

☆とくに**朱子学(しゅしがく)**〔宋学〕は大義名分論など，上下の身分秩序や礼節(れいせつ)を重視したため，幕府・諸藩に封建(ほうけん)社会の**教学**として手厚く保護された。

A　朱子学派⇒京学

あ　**林鵞峰(がほう)〔春斎(しゅんさい)〕**　⇒父の羅山を継ぎ編年体の**歴史書『本朝通鑑(ほんちょうつがん)』を完成**。

い　**林鳳岡(ほうこう)〔信篤(のぶあつ)〕**　⇒５代綱吉の信任を受け，初代**大学頭(だいがくのかみ)**となる。

う　石川丈山(じょうざん)

え　**松永尺五(せきご)**　⇒貞門俳諧の創始者松永貞徳(ていとく)の子。

お　**木下順庵(じゅんあん)**　⇒**加賀藩主前田綱紀(つなのり)，のち５代将軍綱吉に仕える。**

☆木門(もくもん)十哲と呼ばれる弟子を輩出した。

か　**新井白石**　⇒**６代家宣(いえのぶ)・７代家継の侍講**として**正徳の政治**を展開。

☆**『読史余論(とくしよろん)』『古史通(こしつう)』『藩翰譜(はんかんふ)』『折(おり)たく柴(しば)の記』**を著す。

き　**雨森芳洲(あめのもりほうしゅう)**　⇒**対馬藩宗氏(そうし)に仕え**，朝鮮通信使問題で新井白石と対立。

く　**室鳩巣(むろきゅうそう)**　⇒**加賀藩主前田綱紀，のち８代吉宗に仕える。**

☆**『六諭衍義大意(りくゆえんぎたいい)』**『兼山麗沢秘策(けんざんれいたく)』『駿台(すんだい)雑話』を著す。

B　**朱子学派⇒南学(なんがく)〔海南(かいなん)学派〕**

あ　**谷時中(たにじちゅう)**　⇒**土佐**で南村梅軒を継承し，**南学を確立**。

い　**野中兼山(のなかけんざん)**　⇒谷時中に学び，土佐藩家老(かろう)として藩政を主導。

う　**山崎闇斎(やまざきあんさい)**　⇒谷時中に学び，江戸で**会津藩主保科正之(ほしなまさゆき)**に献策する。吉川惟足(これたり)に吉川神道を学び朱子学と結合，道徳性の強い**垂加神道(すいかしんとう)**を唱える。

☆神の道と天皇の徳が一体であることを解くことから，山崎闇斎一門の「崎門(きもん)学」は，幕末の尊王論の根拠ともなった。

☆高弟の**佐藤直方(なおかた)**や浅見絅斎(けいさい)らは，神道に傾倒する師に反対し破門された。

C　**陽明学派**

明の**王陽明**が創始。朱子学の知識偏重を批判，実践を重視し「**知行合一**」を説いた。

時世批判の傾向が強く，幕府から警戒された。

あ　**中江藤樹**　⇒もと大洲藩（伊予国）の朱子学者。**日本陽明学の祖**。故郷の近江国に戻り私塾**藤樹書院**を開設，「近江聖人」と呼ばれた。

☆『翁問答』などを著す。

い　**熊沢蕃山〔了介〕**⇒中江藤樹に学んだ後，**池田光政に仕え岡山藩家老となり**，治山治水事業に実績を上げる。最古の私塾**花畠教場**も開設。

☆経済政策書『**大学或問**』で，武士の土着や参勤交代の緩和を主張し幕政を批判。**幕府により下総国古河に幽閉される。**

D　**古学派**

孔子・孟子への復帰を主張し，原典の実証・典拠を重視。朱子学を批判した。

あ　**山鹿素行**　⇒独自に「**聖学**」を唱え朱子学を攻撃，幕府により播磨国赤穂に流される。

☆『**聖教要録**』『**中朝事実**』『**武家事紀**』を著す。

☆「**士道**」**の大成者**としても有名。

い　**伊藤仁斎・東涯**⇒**京都**堀川に私塾**古義堂〔堀川塾〕**を開設し，**古義学派〔堀川学派〕**を創始。

☆父の仁斎は『論語古義』『孟子古義』『童子問』，子の東涯は『制度通』などを著す。

う　**荻生徂徠**　⇒**江戸**に私塾**蘐園塾**を開設し，**古文辞学派〔蘐園学派〕**を創始。**柳沢吉保のち８代吉宗に仕える。**

☆吉宗の諮問に答え『**政談**』を献じ，統治の具体策を説く**経世論**を展開。他の著書に『弁道』など。

え　**太宰春台**　⇒師の荻生徂徠の経世論を継承・発展させ，『**経済録**』『**経済録拾遺**』を著す。

お　服部南郭　⇒荻生徂徠の門下。漢詩文に優れる。

E　**折衷学派**

漢・唐・宋・明代の諸学説を選択・折衷して正しい解釈に達しようとする学派。

☆片山兼山・井上金峨らが唱え，田沼時代に流行した。

F　**考証学派**

経書の解釈を，一定の思想的立場から行うのではなく，確実な典拠に基づき実証的かつ客観的に行おうとする学派。清代考証学の影響が強い。

☆江戸時代後期に盛んとなり，その文献考証の方法は，国学や歴史学に多大な影響を与えた。

⑤江戸時代中期の諸学問の発達

儒学の発達が，合理的で現実的な考えという点で他の学問にも大きな影響を与えた。

A　**歴史学**

あ　**林家**(りんけ)　⇒**林羅山**(はやしらざん)・**鵞峰**(がほう)父子が，幕命により『**本朝通鑑**(ほんちょうつがん)』を編纂。
☆北宋の『資治通鑑(しじつがん)』にならった編年体の歴史書。

い　**水戸藩**　⇒**徳川光圀**(みつくに)が明から**朱舜水**(しゅしゅんすい)を招き，江戸の**彰考館**(しょうこうかん)で神武(じんむ)〜後小松天皇を**紀伝体**で著す『**大日本史**(だいにほんし)』を編纂。明治期の1906年完成。

う　**新井白石**　⇒『**読史余論**(とくしよろん)』『**古史通**(こしつう)』『**藩翰譜**(はんかんふ)』を著す。

B　**本草学**

中国から伝わった薬学。のち博物学的色彩を強め物産学に発展。

あ　**貝原益軒**(かいばらえきけん)　⇒『**大和本草**(やまとほんぞう)』を著す。朱子学者でもあり，道徳書『**和俗童子訓**』や養生書の『養生訓』も有名。

い　**稲生若水**(いのうじゃくすい)　⇒**加賀藩主前田綱紀に仕え**，『**庶物類纂**(しょぶつるいさん)』を著す（死後に完成）。

C　**農学**

宮崎安貞(やすさだ)が著した初の本格的農書『**農業全書**』が広く普及する。
☆明の徐光啓(じょこうけい)が編んだ『農政全書』の影響を受ける。

D　**和算**

測量・商取引などの必要から発達した日本独自の数学。算額を神社仏閣に掲げ，奉納することも広まった。

あ　**吉田光由**(よしだみつよし)　⇒和算・算盤(そろばん)の普及に功績があった。『**塵劫記**(じんこうき)』を著す。

い　**関孝和**(せきたかかず)　⇒筆算式代数学・円理(えんり)の創始などに多大な業績をあげた。『**発微算法**(はつびさんぽう)』を著す。

E　**天文**(てんもん)**・暦学**(れきがく)

1684年，**安井算哲**(やすいさんてつ)〔**渋川春海**(しぶかわしゅんかい)〕が，元の授時暦をもとに唐の宣命暦を修正。日本独自の**貞享暦**(じょうきょうれき)を完成し，幕府の**天文方**(てんもんかた)に任命される。

F　**医学**

古医方(こいほう)という，理論より実践中心であった漢代の影響を受けた漢方医学の創始。

あ　名古屋玄医(げんい)⇒日本における古医方の先駆者。京都の医師。

い　山脇東洋(やまわきとうよう)　⇒18世紀半ば，初めて腑分(ふわ)け（死体の解剖）を行い，初の解剖図録『**蔵志**(ぞうし)』を著す。京都の医師。

G　**洋学**の先駆

あ　**西川如見**(じょけん)　⇒**長崎**の天文・地理学者。『**華夷通商考**(かいつうしょうこう)』を著す。
☆８代将軍吉宗に招かれ江戸に下る。

い　**新井白石**　⇒**屋久島**(やくしま)に潜入したイエズス会の**イタリア人宣教師シドッチ**を尋問(じんもん)し，『**采覧異言**(さいらんいげん)』『**西洋紀聞**』を著す。

H　国文学の研究⇒のち**国学**へと成長

あ　**北村季吟**(きぎん)　⇒幕府の**歌学方**。『**源氏物語湖月抄**(こげつしょう)』などを著す。

い　**戸田茂睡**(もすい)　⇒古今伝授(こきんでんじゅ)や制(せい)の詞(ことば)（＝和歌に使えない言葉）など，中世歌学の伝統を排除。『梨本集(なしもと)』を著す。

う　**契沖**(けいちゅう)　⇒下河辺長流(しもこうべちょうりゅう)の影響を受け，徳川光圀(みつくに)（水戸藩）の依頼で『**万葉代匠記**(まんようだいしょうき)』を著す。

⑥国学の発達（18世紀～19世紀前半）

古学派の研究法や歌学の刷新運動，**神道思想**などが源流となり発達。各地の神官・豪農・豪商に広まった。儒教・仏教などの外来思想を批判，『古事記』『日本書紀』などを研究し，古代人の生活・思想である**古道**（＝日本古来の道）を理想化する復古主義をとった。

A　**荷田春満**（享保期）

『**創学校啓**』を著し，京都から江戸に下り８代将軍吉宗に提出。

B　**賀茂真淵**（宝暦期）

荷田春満に師事。『**国意考**』『**万葉考**』などを著し，万葉集に“高く直き心”を見出した。

C　**本居宣長**（天明・寛政期）

伊勢国松坂の医師で，**賀茂真淵に師事**。“漢心”を捨て“真心”に生きることを重視し，“惟神の道”を説いた。

☆『**古事記伝**』『**源氏物語玉小櫛**』『玉くしげ』『秘本玉くしげ』『玉勝間』『うひ山ぶみ〔宇比山踏〕』などを著した。

☆自宅に私塾「鈴屋」を設立。

D　**塙保己一**（寛政期）

賀茂真淵に師事した盲目の学者。古典の収集・保存に心がけ，幕府の援助を受けて江戸に**和学講談所**を設立，『**群書類従**』を編纂した。

☆のちの国史学・国文学の基礎を築いた。

E　**平田篤胤**（天保期）

本居宣長の没後門人を自称。神道と国学を融合して**復古神道**を唱え，民族主義・国粋主義的傾向を強めた。

☆復古神道は，篤胤の死後，弟子たちにより各地の神官・豪農・豪商に広まり，**幕末の尊王攘夷運動に絶大な影響を与えた。**

F　**伴信友**

国史・国文学を収録した『比古婆衣』や，大友皇子を書いた『長等の山風』などを著す。

⑦洋学〔蘭学〕の発達

実学奨励策をとる**８代将軍吉宗が，漢訳洋書輸入の禁を緩和（1720年）**。さらに**青木昆陽・野呂元丈にオランダ語を習得させる。**

A　洋学の発達

あ　**『解体新書』（杉田玄白・前野良沢**・中川淳庵・桂川甫周）

☆ドイツ人クルムスの著した『解剖図譜』の蘭訳本『ターヘル＝アナトミア』を翻訳して1774年に刊行。

い　**『蘭学事始』**　（**杉田玄白**，『解体新書』訳述の回想録）

う　**『蘭学階梯』**　**（大槻玄沢）**

☆杉田玄白・前野良沢の弟子が著した蘭学入門書。

え　**『西説内科撰要』**　（**宇田川玄随**，オランダ内科書の翻訳）

お　**『ハルマ〔波留麻〕和解』（稲村三伯）**

☆大槻玄沢の弟子が著した**初の蘭日辞書**。いわゆる「江戸ハルマ」。

か　**平賀源内**の研究

長崎で学んだ科学の知識をもとに，**エレキテル（摩擦発電器）**，**寒暖計**，火浣布（不燃性の布）などを発明。

☆戯作者としては福内鬼外と名乗る。

B　洋学の展開

あ　**『寛政暦』**　（天文方の**高橋至時**，西洋暦を取り入れ作成）

い　**『暦象新書』**　（**志筑忠雄**，地動説や万有引力説を紹介）

う　**『大日本沿海輿地全図』（伊能忠敬，1821年完成）**

C　幕府の洋学統制

西洋文明の移入は医学・兵学・地理学などの科学技術に限定され，実学としての性格が強くなった。

あ　**シーボルト事件（1828年）**

国禁であった日本地図の持ち出し未遂。オランダ商館の**ドイツ人医師シーボルト**は国外追放，天文方の**高橋景保**は獄死。

☆シーボルトには『**日本**』などの著書がある。

い　**蛮社の獄**　　**（1839年）**

モリソン号事件（1837年）を契機とする幕政批判などを理由に，**尚歯会〔蛮学社中〕**の蘭学者に弾圧を加える。**『慎機論』**の**渡辺崋山**，**『戊戌夢物語』**の**高野長英**らを処罰，小関三英は自害した。

⑧思想の発達

A　政治・社会思想の発達

あ　町人道徳の登場　　　　（18世紀前半〜）

享保期，**京都**の**石田梅岩**が，商人を中心とする庶民の生活倫理として**心学〔石門心学〕**を唱え，『**都鄙問答**』を著す。

☆儒教道徳に仏教や神道の教えを加味。弟子の**手島堵庵（京都）**やその弟子**中沢道二（江戸）**が全国に広める。

い　幕藩体制批判思想の出現（18世紀半ば〜）

『**自然真営道**』『統道真伝』（陸奥国八戸の医師**安藤昌益**）

☆“万人直耕の自然世”を理想とし，身分制社会を鋭く批判。

う　**経世論**の発達　　　　（19世紀〜）

『**稽古談**』『経済談』　　　**（海保青陵）**⇒藩重商主義

『**西域物語**』『**経世秘策**』　**（本多利明）**⇒貿易論・蝦夷地などの開発論

『**経済要録**』『**農政本論**』『宇内混同秘策』**（佐藤信淵）**

⇒産業国営化・貿易論

B　**尊王思想**の発達

当時の尊王思想は「将軍が天皇の委任により政権を預かる」と捉え，一般に幕府を否定するものではなく，朝廷を尊ぶことにより幕府の権威を護ろうとするものが多かった。

あ　尊王思想の発生

水戸藩の前期**水戸学**，山崎闇斎（朱子学者〔南学〕）の垂加神道。

☆水戸学は朱子学を軸に神道・国学を統合し，天皇崇拝と封建秩序の確立を説いた。

い　**尊王事件**の発生

宝暦事件（1758年，竹内式部）

☆**京都**で神道家が追放される。

明和事件（1767年，山県大弐）

☆**江戸**で『**柳子新論**』を著し幕政を批判した兵学者が死罪となる。竹内式部も連坐し八丈島へ流罪となる。

う　**尊王論**の普及

高山彦九郎，蒲生君平（『山陵志』の著者），**頼山陽**（『**日本外史**』の著者）など。

え　幕末の**尊王攘夷運動**(そんのうじょういうんどう)への影響

平田篤胤(あつたね)**の復古神道**

☆篤胤の死後，とくに中部地方・関東地方中心に広まる。

水戸藩主徳川斉昭(なりあき)のもとでの**後期水戸学**

☆藤田幽谷(ゆうこく)，**藤田東湖**(とうこ)(『**弘道館記述義**(こうどうかんきじゅつぎ)』の著者)，**会沢安**(あいざわやすし)〔**正志斎**(せいしさい)〕(『**新論**』の著者)など。

松尾多勢子(たせこ)ら女性の運動家

お　幕末の**和魂洋才**(わこんようさい)思想

横井楠南(しょうなん)(熊本藩士)，佐久間象山(しょうざん)(松代(まつしろ)藩士)，**吉田松陰(長州藩士)**らが唱える。

☆佐久間象山は「東洋道徳，西洋芸術」，吉田松陰は松下村塾で一君万民論を唱える。

C　哲学的思想の登場

三浦梅園(みうらばいえん)が『玄語(げんご)』で自然哲学を説き，“条理学(じょうりがく)”を唱える。

☆儒学と洋学の知識を合わせる。

⑨化政文学（18世紀後半〜19世紀前半）

元禄文学に比べ，より通俗的で，政治・社会に題材をとる傾向がある（人間性は深く掘り下げない＝**戯作**(げさく)）。三都の本屋の旺盛(おうせい)な出版活動と，**貸本屋**(かしほんや)の増加により，庶民にも読書の習慣が広まった。

A　**小説**

あ　草双紙(くさぞうし)〔子供向けの赤本⇒大人向けの黒本・青本〕⇒挿(さ)し絵で引きつける

い　**黄表紙**(きびょうし)⇒風刺・滑稽(こっけい)を基調とする通俗的絵入り小説
『鸚鵡返文武二道(おうむがえしぶんぶのふたみち)』『**金々先生栄花夢**(きんきんせんせいえいがのゆめ)』（**恋川春町**(こいかわはるまち)）⇒**寛政の改革で弾圧**
『**江戸生艶気樺焼**(えどうまれうわきのかばやき)』（**山東京伝**(さんとうきょうでん)）

う　**洒落本**(しゃれぼん)⇒遊里(ゆうり)を題材とする絵入り短編小説
『**仕懸文庫**(しかけぶんこ)』（**山東京伝**）　⇒**寛政の改革で弾圧**
☆版元の**耕書堂**経営者**蔦屋重三郎**(つたやじゅうざぶろう)も財産の半分を没収される。

え　**読本**(よみほん)⇒歴史・伝説を題材とした文章主体の小説
『**雨月物語**(うげつものがたり)』（**上田秋成**(うえだあきなり)）　⇒**大坂**，前期読本
☆日本・中国の古典から着想した怪異・怪奇小説集。
『**南総里見八犬伝**(なんそうさとみはっけんでん)』『**椿説弓張月**(ちんせつゆみはりづき)』（**曲亭**(きょくてい)〔**滝沢**〕**馬琴**(ばきん)）⇒**江戸**，後期読本
☆“勧善懲悪(かんぜんちょうあく)”“因果応報(いんがおうほう)”を主題とする長編小説。

お　**滑稽本**(こっけいぼん)⇒滑稽・笑いを基調とする絵入り小説
『**東海道中膝栗毛**(ひざくりげ)』（**十返舎一九**(じっぺんしゃいっく)）⇒弥次郎兵衛(やじろべえ)と喜多八(きたはち)の旅行記
『**浮世風呂**(うきよぶろ)』『**浮世床**(うきよどこ)』（**式亭三馬**(しきていさんば)）

か　**合巻**(ごうかん)⇒数冊の黄表紙を綴(と)じ合わせたもの
『**偐紫田舎源氏**(にせむらさきいなかげんじ)』（**柳亭種彦**(りゅうていたねひこ)）　⇒**天保の改革で弾圧**
☆正体は江戸の旗本。

き　**人情本**(にんじょうぼん)⇒恋愛を主題とした絵入り小説
『**春色梅児誉美**(しゅんしょくうめごよみ)』（**為永春水**(ためながしゅんすい)）　⇒**天保の改革で弾圧**

B　**随筆**

『**北越雪譜**(ほくえつせっぷ)』（**鈴木牧之**(ぼくし)）
☆越後国の農村で雪国の自然や生活を描写。山東京伝・曲亭〔滝沢〕馬琴ら江戸の文化人の交流でも有名。

C　**脚本**

あ　**人形浄瑠璃**

歌舞伎に圧倒され低調化，一中節・常磐津節・清元節・新内節などの唄浄瑠璃〔座敷浄瑠璃〕へと転化していった。

『仮名手本忠臣蔵』『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』（２世**竹田出雲**ら）

『本朝廿四孝』（**近松半二**ら）

い　**歌舞伎**

庶民生活を扱う生世話物が流行。並木正三が人形浄瑠璃の技法を取り入れて花道・せり出し・廻り舞台などを考案，**芝居小屋**は大人気となる。

☆寛政期には中村座・市村座・森田座（のち守田座）の江戸三座が栄えた。

『東海道四谷怪談』　（４世**鶴屋南北**〔大南北〕）

『三人吉三廓初買』　（**河竹黙阿弥**）⇒幕末期にかけての**白浪物**の名手

D　**詩歌**

あ　**俳諧**

『蕪村七部集』（**蕪村**〔**与謝蕪村**〕）⇒京都，写実的な句を詠む

『おらが春』　（**一茶**〔**小林一茶**〕）⇒信濃国

い　**川柳**

機知に富んだ表現で人情・世相・風俗を詠む，滑稽・風刺を基調とした俳諧。

☆**『誹風柳多留』**（**柄井川柳ら**）

う　**和歌**

万葉調　**賀茂真淵**，田安宗武，加藤千蔭ら

古今調　**香川景樹**⇒**桂園派**

新古今調　村田春海

生活歌　**良寛**

☆越後国の僧，独自の歌を詠む。

え　**狂歌**

機知に富んだ表現で人情・世相・風俗を詠む，滑稽・風刺を基調とした和歌。

☆**大田南畝**〔**蜀山人**・四方赤良〕と朱楽菅公が『万載狂歌集』を編集。他に**石川雅望**〔**宿屋飯盛**〕ら。

⑩生活と信仰

A　三都・城下町の娯楽

芝居小屋，**見世物小屋**，**寄席**，**勧進相撲**，湯屋〔銭湯〕，髪結床，遊里〔遊郭〕，**瓦版**〔**よみうり**〕，名所図会，道中記など。

※寄席では**落語**や**講釈**〔**講談**〕が行われた。

B　農村・在郷町の娯楽

村芝居〔地芝居〕，猿まわし，獅子舞，万歳，瞽女や座頭の歌など。

C　**寺社参詣**の流行

あ　寺社の世俗化

縁日，**開帳**・出開帳，**富突**〔**富くじ**〕など。

い　旅の流行

参詣だけでなく，湯治，物見遊山など。

☆『**菅江真澄遊覧記**』は，三河国の国学者が約40年にわたり東北各地を旅してまとめたもの。

う　寺社参詣の例

伊勢神宮（**伊勢国**，内宮・外宮への**御蔭参り**），善光寺（信濃国），金毘羅宮〔金刀比羅宮〕（讃岐国），成田不動（下総国）など。

え　聖地・霊場への**巡礼**

四国八十八カ所（弘法大師〔空海〕信仰），**西国三十三カ所**（観音信仰）など。

D　民間行事

あ　**五節句**（人日・上巳・端午・七夕・重陽），彼岸会，盂蘭盆会など。

い　**日待**・**月待**・**庚申講**・富士講など。

☆各地に庚申塔〔庚申塚〕がつくられた。